

お話され、大変興味深い内容でした。

15分間の休憩後、事務局から会務報告があった。その内容は、①昭和63年の事業として第16回、第17回研究会の開催と第6号研究会報の発行があったこと、②会計監査が監事の高橋正侑先生によってなされ、承認を得たこと、③次期（第19回）研究会の開催、第7号会報の発行を予定している、などであった。

会務報告後、最後の特別講演に移った。富山医科大学の東條英昭助教授が、「バイオテクノロジーの応用による新しい実験動物の開発」と題して講演された。この司会は佐藤勝紀（岡山大学・農学部）が担当した。遺伝子導入の技術が進歩して、多くの遺伝子導入（トランスジェニック）動物が作出されるようになってきたこと、またこれらのトランスジェニック動物は遺伝子の構造、機能の解析、ヒトの遺伝子治療、新しい実験動物、家畜の開発に応用されることなど最新の遺伝子工学についてお話され、大変印象深い内容でした。

会終了後、再建を祝う懇親会が同会場で行われた。懇親会では栗本雅司理事（林原生物化学研究所・所長）の御挨拶、乾杯で祝宴に移った。再建を期したこの研究会が成功のうちに終わったこともあって、終始なごやかな雰囲気、会員相互の親睦を深めた。

上記の特別講演要旨は本誌の特別講演要旨（3

～19ページ）に詳しく掲載されているので、参照して下さい。

~~~~~

## 平成元年度役員会報告

平成元年度12月2日（土）午後1時30分から2時までまきび会館で開催された。

議題ならびに討議内容は以下の通りである。

①昭和63年度の事業報告について……研究会は2回（第16回、第17回）開催され、研究会報は第6号が発行された。

②会員数の動向について……昭和63年12月126名、平成元年12月は127名になった。

③昭和63年度の会計監査について……昭和63年度（昭和63年1月1日～12月31日）の会計報告の監査が平成元年11月24日高橋正侑監事によってなされ、御承認を得た。

④次期（第19回）研究会の開催について……次期の研究会は平成2年度4～5月頃開催する方向で検討する。

⑤第7号の発行について……平成2年4月に発行を予定しているので、会員の皆様から原稿を募集していること、などが出された。

この他、研究会の運営、規約などについても今後、十分時間をかけて検討していくことが提案された。